



祐介の目

No.124

大田祐介 (福山市議会議員)

危機意識はまったく無かった。日本人としての民族同一性を捨て、GHQの策略にはまっぴり言え、まっぴり言える。

文化庁によれば全国に約8万の神社があるが、宮司などの神

神社消滅の危機

新年あけましておめでとうございます。今年こそ天佑神助を願うばかりです。しかし、神社に参るのは初詣のみという方も多いだろう。なぜこうなったのか、戦後のGHQ占領政策「神道指令」の影響が大きい。GHQは軍国主義を生み出した悪の根源こそが国家神道であり、日本がアメリカに歯向かった原因であると断じた。政教分離により公的機関による神社への支援や資金援助が禁止された。しかし、神社の立派な社殿が氏子の寄付だけで建立・運営できるはずがなく、時の為政者による手厚い保護があったのだ。

戦後、私達はアメリカナイズされ、にわかキリスト教徒になつて偽チャペルで結婚式を挙げ、相対的に神前結婚式は減少した。農業は軽視され衰退し、五穀豊穡を祝う秋祭りには形骸化した。先人が数百年間維持してきた神社が私達の世代で消滅するかもという

職は約2万人しかいない。よって複数の神社の管理を掛け持ちすることになるが、過疎地にある約3万の神社が消滅の危機にあるそう。私は山野町の最深部にあり無人集落となつた矢川で91歳の宮司が守る塩川神社が好きだ。注連柱は広島藩の家老であつた上田宗箇流の上田家が奉納したもので、奥の院は鎮座から九百年を数え、ここには神が宿ると実感する場所である。近郊の岩屋権現は古来福山藩主が直参した由緒ある宮とも伝えられている。機会あればぜひ参拝していただきたい。

さてこれらの神社を私達はどやって守ればよいのか。会社や家族で神社に参拝する習慣を作ってはどうか。神社がパワースポットであることがわかるし、子供たちに宗教教育は必要だ。政教一致は無理でも、せめて政教一緒自治体や民間企業による支援策を考へる必要がある。そうでないと観光地以外の神社は消滅する一方だろう。